

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心会 発 行

5年2月現在 逗子地区 葉山地区 大船地区 (合計)	164名 239名 46名 (449)名	5年2月号 根岸編 中	(247号) 者 岳者 集者 岳者 愛
--	-------------------------------	-------------------	------------------------------------

三月の行事予定

◎選抜神奈川予選会

日時・3月7日(日)

場所・平塚農業会館

碩心会から左記の方が出吟されます

内山俊岳 磯村朋岳 菊池祐風 鈴木葉風
根岸啓風 西川幸風 西山蓉風 駒場咲山

(順不同)

◎碩心会春季審査会

日時・3月14日(日)10時開始

場所・逗子市立図書館ホール

◎法人化25周年記念

第103回全国吟道大会

日時・3月28日(日)9時30分より

場所・東京ベイNKホール

(神奈川出吟・舞)

連吟 終南山 加藤岳洵 青木心岳

舞 中村京愛 伊藤京光

志水京齋 栗山久子

荒木アイ子

吟 岩渕昊風 (岩手吟詠会)

詩舞吟 長瀨に遊ぶ

舞 小林紫舟 白井紅舟
佐藤汪舟 綾部秋香
高橋之香

大合吟 上州の秋

吟 鈴木岳萩 佐藤真岳

詩舞吟 秋夕琵琶湖
に泛ぶ

舞 一之瀬京華 五十嵐京瑠璃
西沢京瓏 鈴木京粹
古谷京佳 小島はつみ
大黒優風 (高知吟道会)

大合吟 鳴門の観潮

吟 神奈川

連吟 合戦川中島

吟 佐藤岳統 石毛岳象

独吟 平の敦盛

吟 石田洋風

大合吟 桂林荘雑詠
諸生に示す

吟 神奈川

大合吟 偶感

吟 全員

碩心会初吟会

「和・更に大きな輪に」

佐久間 爽 岳

平成五年一月十日(日)、碩心会の初吟会が逗子ビーチセンターにて開かれました。開会十時の定刻前には、早くも満員となり、加藤岳相先生の開会の言葉。根岸岳萃会長は「皆さま

んが健康に留意して、碩心会の躍進の年になるように」と挨拶されました。

矢嶋悦岳先生の先導により「碩心会の詩」を出席者二百五十余名による一大合吟をする
と、新年になったという実感が湧き上ります。
各支部による合吟のあと、県本部長、安孫子岳晴先生は「碩心会は山形県の寒河江吟友会と姉妹会として友好を深めているが、このような和が更に大きな輪につながるものと確信している」と話されました。

祝舞が三題、あでやかに舞い納められたあと、三井岳龍先生の音頭で乾盃。お弁当も美味しく好評でした。

第二部の演芸は、プロ級の歌、華麗な舞、酒脱な踊り等々で活気に満ちました。昨年の麦畑の続編で、今年は赤ちゃんを「おんぶ」しての出演がありました。花笠音頭で笠の裏を返すと一転、先生方の似顔絵。実によくいていました。見せていただいた一同は、それぞれに心の中で、次のような賞を差し上げたことと思います。奮闘努力賞・アイデア賞・衣装扮装賞・面白かったで賞……等々。

お当番になられた逗子A支部の方々、いろいろお心遣い頂きありがとうございました。

碩心会平成5年初吟会会計報告

会員247名 招待4名 平成5年1月10日於京急ビーチセンター

収入の部			支出の部		
摘要	金額	備考	摘要	金額	備考
会費	741,000	3000×247	ビーチセンター関係	197,000	
指導者一同	25,000		会場費	170,000	
本部会計より補助	70,000		持込料	20,000	
祝儀	20,000	新田先生 安孫子先生 佐藤先生 鹿嶋先生	心付	5,000	
計	856,000		ゴミ処理	2,000	
現品寄付			弁当代	389,050	1550×251
岡嶋岳鳳先生		清酒1本	飲物とつまみ	197,684	
逗子A支部		”3本	ワンカップ	50,200	200×251
萬屋酒店		”3本	ウーロン茶	25,100	100×251
			ビール(大)	40,320	320×126
			清酒	12,460	1780×7
			つまみ	69,604	
平成5年1月18日			みかん代	20,091	
以上の通り報告いたします			余興参加賞	11,288	
			名札紙筆代	3,000	
担当支部			担当支部打合せ	5,025	
逗子A			招待先生御車代	18,000	新田、安孫子
企画部長	村田 瀨 岳 (印)		通信連絡費	2,895	佐藤、鹿嶋
” 副部長	綾部 山 岳 (印)		雑費	2,248	
” 副部長	松井 正 風 (印)		コピー代	4,720	プログラム含
			担当支部へのお茶代	5,000	
			合計	856,000	

梅辺歩月 江馬細香

梅月嬋娟として夜を奈何んせん
微吟して歩を移して横斜を踏む
満身の疎影清きこと水の如し
但だ幽香を認めて花を見ず

※この詩は北宋の詩人林逋（りんぼ）の有
名な詩「山園小梅」を踏んで作られたも
ので、その中の「疎影横斜水清浅 闇香
浮动月黄昏」の二句は世に名高い。

(訳詞)

月の梅林を踏む

〃うるわしく 梅照らす月

いねがてに 詩(うた) 口ずさみ

そぞろ行けば

踏む枝の 影 いとさやか

花見えず ただ香(か)に におう〃

※いねがてに〓寝られなくて。

寝たくないの

(江馬細香・一七八九〜一八六三)

江戸末期の女性詩人。名は夢保。大垣の藩
医江馬蘭齋の娘。頼山陽(一七八〇〜一八六
三)に詩を学んだ。山陽の愛人で彼に尽くし、
終生独身を通した。(詩歌春秋・春の部より)

堀内支部D班(火曜組)

天氣に恵まれた稽古はじめ

堀内D 鈴木 深 風

堀内支部合同の初吟会がすみ1月19日(火)は
私達D班火曜組の稽古はじめの日。すばらし
い天氣に、みんなの口からよかった の言
葉が出、今年も幸先よしとみんな気分爽快。

お稽古は、一年の最初ということで、先生
から心をひきしめて吟じましよう、まず教
本一巻の「序」と「吟道精神」を全員で朗読。
つづいて、新年にちなみ、大正天皇御製「歳
朝皇子に示す」を一人づつ吟じました。そし
て次に、先生がポケット用にと書いて下さっ
たプリントをいただき、「朗詠」「神奈川県
本部詩」「碩心会の詩」を合吟し、心あたら
に今年の精進を誓いました。

そのあとは、今年も楽しい一年であります
ようにとお茶で乾盃、お茶菓子で楽しい懇親
のひとつきを過しました。

火曜日組は肩ばらず、時に世間話に華が咲
き、折しも葉山に縁の深い皇室の、皇太子妃
決定の話題で盛り上がり、楽しい稽古はじめ
の一日でした。

碩心会 指導者講習会

1月25日月午後7時から、六代御前社務所
に於て今年初の講習会が行われました。あい
にく新年早々なのに冷たい雨が降りしきり、
出席率を心配しておりましたが、新年への心
構えか、又昨年暮に出席に関する件等検討し
た効果か、皆さん早々と多数みえられました
一月はまず岩崎先生が「吟道」平成4年11
月号の「洛橋晩望」を担当されました。黒板
に詩文を書き、自分なりの符付けを書き入れ
作者の略歴、詩文の解釈など勉強の成果を発
表されます。その上で皆さんで合吟というよ
うな方向で進みます。私なりに今回は簡潔、
明瞭でよかったと思いました。

次に新年はまず根岸会長からということ
でサミュエルウルマンの「青春」を題材にされ
ました。光野先生がよく吟じられるこの詩は
新聞等でもよく取りあげられ、私もこの詩に
勇気づけられ好きな詩です。内容よし、解り
やすく、よかった、わが教室でも早速勉強
しようと思心にきめ帰宅しました。

(平成元年1月号に「青春」の記事を記載
してあります。参考までに) 岳 愛

与謝蕪村

(生涯)

蕪村は享保元年(一七二六)撰津国(大阪)に生まれた。若くして江戸に出、夜半亭早野巴人に俳諧を学んだが、巴人が死するに及んで、北関東から東北にかけて、約十年の流浪の旅を続けることとなった。蕪村二七才のときであった。

蕪村は俳人であると同時に画家でもあり、十年の流浪の旅は、蕪村の俳人及び画家としての土台を固めさせた。やがて明和七年(一七〇)五五才のときに夜半亭二世を継ぎ、この後の十年は、蕪風復興を唱え、古典の教養を土台とした浪漫的、絵画的な句を発表し、天明三年(一七八三)六八才で没した。

(俳風)

芭蕉への復帰を目指し、古典的教養を土台とした絵画的、浪漫的、耽美的な美を求めた。又印象の鮮明な表現が多い。

我々のよく知る

「菜の花や月は東に日は西に」

ここにも俳・画統一の世界がある。

第19回全国選抜者吟道大会

碩心亭選会行わる

とき・1月26日(火)午後7時より

ところ・六代御前社務所

(審査員)

根岸岳萃 加藤岳相 三井岳瓏
千葉岳関 中村岳郵 竹石岳泓
秋元梁岳

(進行・集計他)

鈴木孝岳 矢嶋悦岳 村田澹岳
上村象岳 松井正風

(出吟者・くじ順)

大前曜山 新井瑞風 根岸啓風
内山俊岳 菊池祐風 駒場咲山
臼井照風 磯村朋岳 南湖収山
西山葵風 西川幸風

狭い場所で、七名の審査員の目の前であり、若干とまどった事もあったかと思う。又年末年始の関係で稽古不足も考えられますが、全体的に全力発揮ができなかったように思えた。

審査員からの評として

◇二句三息の基本に留意

◇符付に忠実のあまり強弱不足

◇符付の記憶が先決、間違いのない様に

◇適正な音程がズバリ出せるように

との言葉がありました。

後日代表に選出される方は、自身の名譽の爲にも、又碩心会の爲にも頑張ってお下さるよう、心から声援を贈ります。

尚さすがに教場代表の方々だけあって、採点には差をつけがたく、審査には非常に緊張し、一生懸命担当した事を附記いたします。

岳 郵 記

(電話番号の訂正)

一月号入会 安室明美

(電)〇四五―七六一―〇七五八に

(支部長変更)

葉月支部長 金子訓風から菊池光風に

(電)〇四六八―七一一―二七五〇

(退会)

181 高橋勢風(真澄) 642 大滝弘子(真澄)

651 望月雅男(真澄) 652 板垣尚吾(真澄)

656 堀田明子(真澄)